

破損の進行により、昭和 15 年（1940）から 17 年にかけて丸岡城天守では大規模な解体修理工事が実施されました。今回発見された光山フィルムは、この工事の貴重な映像記録です。正式名称を「郷土文化映画 丸岡城」といい、福井市の写真師・光山香至氏（1908～92）が撮影した 16mm フィルムをデジタル化したものです。光山氏は、昭和 15 年から 18 年頃にかけて、本業の合間に郷土の歴史や文化を題材とした自作映画「郷土文化映画」を撮影し、各地で上映会を開きました。本映像記録も、光山氏自作の「郷土文化映画」の一つです。



修理前の屋根【竹原写真】  
石瓦の破損が随所に確認できます。



光山香至氏【光山フィルム】

丸岡城の解体修理工事は昭和 17 年 11 月に竣工し、翌年 1 月 10 日には、丸岡で工事関係者や地元の名士を招いて「新生霞ヶ城座談会」（福井新聞社主催）が開かれました。本座談会には、工事主任技師の竹原吉助氏や光山香至氏も出席しています。座談会の内容は連載記事になっており、関係者のことばで映像の制作背景を知ることができます。

座談会での発言によれば、光山氏が昭和 15 年に偶然知り合った新聞記者から実施中の丸岡城修理工事の撮影を勧められたことが制作のきっかけでした。撮影には当時の丸岡町や竹原技師も協力しており、座談会での光山氏の発言によれば、竹原技師から電話やハガキで工事の進行状況を教えてもらい、毎回午前 4 時に起きて自転車で福井の自宅から丸岡まで向かい、撮影したとのこと。その他、光山氏は天守内部の光源不足や戦時下でのフィルム欠乏に悩まされたことも発言しており、当時の苦労がしのべれます。

撮影経緯やこうした座談会の実施からも、昭和 15 年～17 年の丸岡城解体修理工事が、地元で大きな関心をもって受けとめられていたことがわかります。



「新生霞ヶ城座談会」  
（福井新聞 1943 年 1 月 21 日）

〇あとかぎ〇

今となっては見ることのできない工事作業や、石切り場での作業の一場面が新たに映像で確認できるようになりました。多くの人々の尽力によって、丸岡城天守が現在まで守り伝えられてきたことを実感させられます。本映像記録のデジタル化にあたっては、所有者様や福井放送株式会社様に多大なご協力をいただきました。改めて感謝を申し上げます。

令和 5 年 3 月 編集・発行

坂井市教育委員会 文化課  
丸岡城国宝化推進室

〒910-0231  
福井県坂井市丸岡町霞町1-41-1  
電話：0776-50-2270 FAX：0776-50-2553  
E-mail：bunka@city.fukui-sakai.lg.jp

# 知られざる丸岡城

昭和 15～17 年の解体修理工事の映像記録から



坂井市 HP で  
公開中



昭和 15 年から 17 年にかけて、丸岡城天守では大規模な解体修理工事が実施されました。今回新たに、この工事の過程を写した映像記録＝光山フィルムが発見されたので紹介します。

## 映像にみる修理の工程

昭和 15 ~ 17 年の丸岡城天守解体修理工事は、天守や石垣の全体に及ぶ大規模な工事でしたが、江戸時代と同じように、重機を用いずに手作業のみで実施されました。光山フィルムからは、当時の現場作業の様子を知ることができます。



足場を組んだ天守 (1941) 【光山フィルム】

足場は鉄骨でなく、木の丸太で組まれています。上部から解体していき、石垣の解体、改築や基礎工事を終えた後、再び天守が組みあげられました。



足場上での作業 【光山フィルム】



天守西鯨 (交換前) 【竹原写真】



石製の鯨 (交換後) 【竹原写真】



鯨搬出 【光山フィルム】

光山フィルムでは、天守鯨<sup>しやし</sup>を屋根から下ろす貴重な映像を見ることができます。映像で搬出されている鯨は慶応元年 (1865) につくられた木心銅張の鯨。戦時下の銅統制のため、新しい鯨は石製に替えられましたが、昭和 23 年 (1948) の福井地震で落下して破損しました。現在は再び木心銅張の鯨になっています。



轆轤の使用 【光山フィルム】



轆轤を巻き上げ材木を持ち上げる様子 (『法然上人絵伝 巻十九』をトレースして作成)

左の作業は、轆轤<sup>ろくろ</sup>を人力で回して重量物を持ち上げる場所。クレーンなどの重機がない時代の建築現場で使用された道具です。

## 石切場の風景

丸岡城天守は、日本で唯一の石瓦葺の天守です。本工事では、老朽化した石瓦の大規模な交換が行われました。瓦の石材には元々は福井市の足羽山産の笏谷石<sup>しやくたにいし</sup>が用いられていましたが、本工事では、現在の石川県小松市滝ヶ原産の石材も用いられました。光山フィルムでは、石瓦加工の様子や石切場の内部を見ることができます。



石切場 (石川県小松市滝ヶ原) 【光山フィルム】

滝ヶ原の最盛期を支えた石切場の一つ。昭和 15 ~ 17 年の工事で使用された石材はこの石切場から採掘されました。



現在の西山石切場跡 (石川県小松市滝ヶ原)



石瓦加工の様子 (石川県小松市滝ヶ原) 【光山フィルム】



石瓦加工の様子 (石川県小松市滝ヶ原) 【光山フィルム】



石切場の内部 (石川県小松市滝ヶ原) 【光山フィルム】



現在の丸岡城天守の屋根  
瓦の多くは滝ヶ原石ですが、写真で青みを帯びた石は笏谷石です。